



木曽林務課だより 3月号

ジビエ料理と木曽の地酒を楽しむイベントを開催しました！

2月16日（木）に、上松町のレストラン「ねざめ亭」で「山の恵みと地酒を味わおう」と題して、シカ肉やイノシシ肉を使ったジビエ料理と木曽の地酒を楽しむイベントを開催しました。

これは、年々減少傾向にある狩猟者の確保につなげるため、ジビエ料理を通じて狩猟の魅力をPRする目的で、木曽猟友会、木曽山林協会との共催により開催したものです。

当日は、大町市で農園カフェ・ラビットを運営されている、信州ジビエマイスターの児玉信子さんに、「猪と根菜のピリ辛キンピラ」、「シカと野菜のバルサミコ酢煮込み」などシカ肉やイノシシ肉を使ったジビエ料理8品を用意していただき、また、合わせて木曽郡内の地酒4蔵7種類も用意し、事前に申し込みをいただいた31名の皆さんに、料理や地酒を楽しんでいただきました。

イベントの後半には、児玉信子さん、木曽猟友会会長の三尾秀一さん、長野県鳥獣対策・ジビエ振興室の丸山真一郎さんの3名の方に、狩猟の楽しさやジビエ料理の魅力などを語っていただくとともに、狩猟免許取得の手続き等について木曽地方事務所林務課担当者から説明し、盛会のうちにお開きとなりました。



←ジビエ料理を楽しむ参加者たち



第2回みんなで支える森林づくり木曽地域会議を開催しました

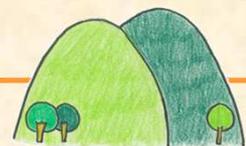
3月3日（金）に、木曽合同庁舎において第2回みんなで支える森林づくり木曽地域会議を開催しました。

この会議は、木曽地域の長野県森林づくり県民税を財源とした事業について、行政関係、森林・林業関係者、地域住民の代表の7名の委員の皆さまからご意見をいただく会議です。

本年度、第2回となる今回の会議では、今年度の県民税を活用した木曽地域の事業の状況について林務課から説明しました。委員の方からは、木曽地域では、森林づくり県民税を利用した事業は、地域の森林整備や雇用の確保にも役立っているなどのご意見をいただきました。

なお、当日の委員の皆さまからいただいたご意見等の詳細は、今後、林務課のホームページに掲載いたしますので、そちらをご覧ください。

課長のつぶやき



木曽の山をめぐる暮らし 5 山で働く人、今昔

尾張藩は木材大名の名があって、木曽からの木材が藩を潤したといわれます。しかし、遠い木曽からの木材搬出は人手がかかりほとんど赤字であったようです。

江戸中期、木曽の山中で木を伐る1グループは、伐採75人、材木を運ぶ人が300人、木曽川を流す人が150人、合せて500人くらいが1団となって働き、木曽谷全体では6か所ほどで伐採がされたといえます。およそ3,000人の人たちが山で川で働いていたこととなります。そのころの木曽谷の人口3万3千人ですから、経済の恩恵は木曽の方が大きかったのかもしれませんが。

現在、木曽谷の人口は2万9千人、そのうち230人が山で働き、昔から続く木曽の林業を支えています。（松原）